

令和5年度(2023年度) 島根県立大学 国際関係学部 国際関係学科 国際関係コース 一般選抜(前期日程) 小論文

【試験時間 90分】

- 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

スウェーデンの学校には「民主主義を教える」という確たる使命がある。スウェーデンの教育法(Skollagen)では、教育の目的を「スウェーデン社会の基盤となっている人権の尊重と、基本的な民主主義の価値を伝え、根付かせる」(第一章四条)と定めている。この目的を達成する柱は3つあり、1つ目は知識や価値を伝授すること、2つ目は個人の成長を促すこと、3つ目は市民性を培うことである。

ところで、(A)教育法が謳う民主主義と人権に関する「知識」や「価値」とは具体的に何を指すのであろうか。スウェーデン若者・市民社会庁が2014年に発刊した教員向けの副教材『政治について話そう!』では、「生徒は民主主義社会において、能動的な市民性を行使するための技能を育まなければならない」と解説する。同書はさらに、「市民的技能」について、学校調査局の2012年発行の報告を引いて詳述している。

1. 法によって定められた、スウェーデン社会が根ざそうとする寛容、平等、連帯、人権の尊重、多様性、環境などの基本的な民主主義の価値。
2. 生徒が能動的に社会参画するために必要となる政治、社会、民主主義の機能に関する論理的知識。
3. 民主的な社会で生活と行動をするために必要となる読み書き、基礎的な数学力、コミュニケーションや情報収集の技術、批判的な思考などの実践的な技能。

これらは、1は能動的な市民としての根本の価値観、2は社会参画するための知識、そして3はそれらを活用するための具体的な技術という整理をしている。(中略)

他方で、学校で政治を扱うことの難しさはスウェーデンでも課題となっている。(中略)実は先述した副教材『政治について話そう!』は、学校において中立を保ちながら政治を教えるにはどうしたらいいのか、騒動を起こさないために学校に政党を招かない判断をしてよいのか、といった問い合わせに答えるようにできている。

この教材を読んでいてハッとさせられたのは、「<学校は価値中立にはなり得ない>それはどういうことか?」という章を読んだときである。日本では、学校において政治問題を扱う際に、教員には「政治的な中立性を保つこと」が求められる。特定の政党や政治的な思想に偏らないように、中立を保って客観的な立場から政治を教えるということである。スウェーデンの学校教育でも同様に政治的な中立を保つことは期待されている。しかし、これを支えるロジックが日本とは大きく異なるのだ。

まず、この章の冒頭ではいきなり「学校は価値中立になることはあり得ない」と断言をしている。つまり、社会の中にある多様な価値観、それすべてを公平に扱って教えることなどできないと潔く認めているのである。そのうえで学校においては、スウェーデン社会に行き渡るべしとされる民主主義の価値(生命の尊厳、表現の自由、男女平等など)を絶対視することをこう明言している。「(B)学校は価値が中立となることはなく、民主主義の価値が侵害されることがあつては決してなりません。」学校が価値中立ではないという事実が意味するのは、学校内で広まる価値については

中立ではないということです。(中略)学校は核となる民主主義の価値においては中立ではなく、民主主義の価値に立脚し、民主主義の価値を伝えることを務めとします。これが意味するのは、学校の教職員としてあなたは学校が基礎に置く民主的な価値観に反する価値や意見に対しては反応し、距離を取る責任があるということです。

(出典:両角達平『若者からはじまる民主主義——スウェーデンの若者政策』萌文社、2021 年、84-88 頁。なお、出題にあたって、文章の一部と見出し、注を省略した。)

問 1 下線部(A)に関して、教育法が謳う民主主義と人権に関する「知識」や「価値」とは具体的にどのようなものを表すか。これまでの学習経験や探究的な学習成果と関連づけて、400 字以内で述べなさい。

問 2 下線部(B)に関して、「学校は価値が中立となることはなく、民主主義の価値が侵害されることがあっては決してなりません。」と書かれている。本文を読みスウェーデンにおいて「学校は価値が中立となること」がないこと、と「民主主義の価値」の関係について、これまでの学習経験や探究的な学習成果と関連づけて説明し、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。